



※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

年始のご挨拶



世界各地の紛争は収まるどころか、むしろ各地に飛び火したような状況のまま 2025 年が始まりました。フィリピン残留者の無国籍問題の抜本的解決も道半ばのまま、いよいよ戦後 80 年の節目です。昨年は新たに見つかった親族の方たちのフィリピン訪問など明るいニュースもありましたが、身元未判明のまま取り残された残留者も多く、明暗がわかれた状態です。日本政府への働きかけ、理解して下さる議員を増やしていくこと、そして国内外の世論を喚起していくこと。こうした1つひとつに愚直に地道に丁寧に取り組み根本的な一括救済につなげる1年にしていきたいと思います。引き続きのご支援をお願いいたします。(PNLSC 一同)

沖縄の親族がコロン島の2世を初訪問

——一方で、就籍許可申立が却下され、くやしさと哀しさの涙を流す2世も

1年前の2023年12月、皆さまからご支援いただいたクラウドファンディングにより日本に一時帰国したパラワン州コロン町在住の2世、赤比地サムエルさん。日本への渡航直前に沖縄県うるま市平安座島の親戚と思われる方たちが名乗り出てください、父親の身元が判明。滞在中に親族訪問とお墓参りが実現するという、驚きの展開となりました。その際、温かく歓迎して下さった沖縄の親族の方たちは、「今度は自分たちがぜひ、フィリピンのサムエルさんを訪ねたい」と言っておられたのですが、早くも2024年11月に、その夢は実現しました。

11月14日、親族の方たちが沖縄から海を越えてフィリピンへと渡りました。親族の皆さんがコロン町のサムエルさんを訪ね、サムエルさんや地元の方たちから熱烈的な歓迎を受けていた頃、那覇家庭裁判所から担当弁護士宛てに喜ばしい知らせが届きました。8カ月前に申立てていたサムエルさんの就籍を許可する審判がおりた(戸籍名:香村サムエル)、という知らせでした。サムエルさんは、親族の訪問と日本国籍の回復という二重の大きな喜びを受け止めることになったのです。

ところが一方で、ほぼ同時期に、神庭利太さんの長女である2世の神庭ロザリナさんの就籍許可申立が却下されるという哀しいニュースが届きました。却下の審判書

には、ロザリナさんの父母について、婚姻の事実が書類の上で確認できず、非嫡出子である可能性が否定できないと書かれていました。

しかし、今もなお国籍未回復のまま取

り残されている2世たちの多くは、戦時下の混乱期に重要な証拠を失い、日本人であることを隠して厳しい戦後を生き延びた人たちがほとんどです。厳格な日本の法律にあてはめて判断する限り、彼らを救済することはほぼ不可能となるでしょう。この現実を、日本政府に理解してもらい、政治的な決着を実現することなくして、「一人も取り残さない」救済は不可能なのです。

戦後80年経ち、いよいよ残された時間は少なくなりつつあります。親族の方たちに囲まれて幸せそうなサムエルさんの笑顔の向こう側に、神庭さんのように却下された人、あるいは証拠不足で申立にすら至らない人たちの無念の思いがあることを、私たちは改めて胸に刻まなければなりません。(事務局)



パラワンの空港にて、沖縄の親族のみなさんをお出迎えするサムエルさん(中央、麦わら帽)



沖縄の親せきが、タガログ語でラブソングを熱唱

昨年、叔父のサムエルと私が沖縄を訪問した際に歓迎してくれた親せきの當間康之さん、香村幸男さん、島袋恵子さんの3名が、11月14日、マニラにやってきました。マニラ在住の私たちの親せきが心からの歓迎を示し、フィリピン到着の第一夜をマニラで過ごしました。

夕食では、當間さんがフィリピンのラブソング"Sanay Laging Magkapiling (ずっと一緒にいられたなら)"をタガログ語で熱唱し、会場は大盛り上がり。4世のヘイズルは「(サムエルさんの亡くなった兄)ノボルおじい



夕食の会場にて

ちゃんはこの場にいませんが、言葉の壁を越えて日本の親せきと絆を深めていることを笑顔で見ていることでしょう。短い時間ですが永遠に忘れない大切な思い出になりました。夢のようです」と語りました。

痛みを伴う過去の記憶が癒しと絆をもたらす

翌朝、一行は私たちが待つパラワン州コロソ町へ。叔父のサムエルと私たちは、子豚の丸焼き、新鮮な海鮮料理からもち米のデザートまで、一族の自慢の味を伝える伝統料理を準備しました。この心からのおもてなしを、沖縄の親族の方たちはとても喜んでくださいました。

もっとも感動的な瞬間は、みんなでサムエルの父・香村勲(旧姓:赤比地)さんが殺された場所を訪れ、一同で故人を偲んで慰霊したときのこと。時間と距離を超えて2つの家族が感謝と愛情でつながりました。

その夜は、全員で村祭りなどで踊る伝統的な「ダンス」を楽しみました。沖縄の親せきの皆さんも加わり、笑い、



サムエルさんの父、勲さんがフィリピンゲリラに殺害された場所を訪れ慰霊の時を持った

手を叩き、笑顔を交わしながら、心が一つになりました。痛みを伴う過去の出来事が、一方で癒しと絆をもたらしていることを実感しました。

別れの寂しさも再会を待ち望む喜びに

翌16日はみんなで1世の妻、クレメンティナのお墓参りをしたのち、コロソ町の風光明媚な場所を訪ねて新しい思い出づくりの時間を過ごしました。その後、台風が島を直撃して滞在が3日間長引いたのですが、3人は「この台風は勲さんからプレゼントかもしれないね」と、延長時間を楽しんでくれました。

沖縄へと帰っていく親せきを見送る瞬間は寂しさの混じる時間となりましたが、2つの家族の国境を越えた繋がりが強まったことを感じました。1世の思い出を共有するだけでなく、本質的な人生の喜びが2つの家族を強めました。歴史と愛情で結ばれた私たちが、フィリピンあるいは日本で再会できる日が楽しみです。(ミチコオルミドシュミット/サムエルさんの姪の3世)



「親せきの皆さんがわざわざ私に会いに来てくれたことが本当に嬉しい。そのうえ日本国籍が回復したことも知らせてくれて、これほど嬉しいことはない」(サムエルさん)
「従兄弟のサムエルさんの国籍回復が叶い、とても喜んでます。弁護士をはじめ、日本政府、みなさまの支援のおかげです。これからも沖縄系の残留2世が一人でも多く救われるよう頑張ってください」(香村さん)



多くのメディアが取材し、取り上げてくれました



ビサヤでの領事面接とともに、新規の残留者の登録も

情報に乏しく諦めていたという2世の言葉重く

11月21日、在ダバオ総領事館の石川義久総領事は、猪俣典弘代表理事とともに、コタバト日系人会のエストレリタ ディアスさんの案内で、マギンダナオ州在住の2世レオノラ ウエハラさんの自宅を訪問しました。彼女のケースはPNLSCが支援する中でもっとも古いものの1つ。一度は就籍が却下されましたが、改めて今後の対応を考えています。「生きている限り、沖縄の親戚を探すのを決してあきらめない」とレオノラさん。

11月26日、猪俣代表理事は在セブ総領事館の矢富利夫総領事、パナイ日比会のレア タカラ会長、シャーリー ポラスさんとともにアンティケ州シバロムを訪れ、イナヤマ アンジェラさんとマリアさんの面接を行いました。翌27日には、アメリカ在住のラファエリタ ミズノさんにオンライン面接を行いました。彼らは総領事らと会えたことを非常に喜び、自らに費やされた努力と時間に深く感謝しました。

12月18日、猪俣代表理事とスタッフおよび3名のフィリピン人学生ボランティアは、パナイ日比会の会員であり現在はバタンガスに住むロヘリア ヤノさんの住まいを訪れました。彼らはそこで在マニラ日本大使館の花田貴裕公使兼総領事および栗原忍一等書記官兼領事とのオンライン面接を実施し、パナイ日比会のシャーリーポラスさんも面接に参加しました。ロヘリアさんは和やかなムードの中、投げかけられた質問に答えることができました。彼女はいつか日本の親戚に会いに行きたいとくり返し話しました。(ジェン・PNLSC マニラ)

11月のパナイ訪問時には、これまで登録していなかった新規の2世にも面会しました。まずはカピス市に住むレメディオス オドンさんを訪問。パナイ島在住ですが生まれはルソン島南部ピコール地方(カマリネスノルテ州ダエット)で、父は日本兵「オドン イグメ」。終戦後は軍から離れ、自宅で病気のために亡くなったそうです。もう1人の新規の登録者は「ヤモト ヒチャカシ」の娘オーロラさん(1946年バコロド生まれ)。2人とも父親の顔を知らずに育ち、情報がないためルーツを探すこともあきらめていたそうです。詳細な聞き取りをする時間はありませんでしたが、戦後は相当に苦勞した様子が伺えました。日本とのつながりを取り戻したいと希望している事実を重く受け止め、パナイ日比会とともに調査を進めていきます。(事務局)



レメディオスさん(右から3人目)



日本人の父に関するわずかな情報を話すレメディオスさん

News Pick Up!

立憲民主党の塩村あやか参議院議員が、2024年12月19日の外交防衛委員会で質問に立ち、フィリピン残留2世問題を取り上げました。

この問題については、半年前の6月28日に上川陽子外務大臣(当時)が「希望する方の一日も早い国籍回復や一時帰国に向けて支援を進める」と答弁しています。これを踏まえ、塩村議員が現・岩屋毅外務大臣に一時帰国などの進捗について問いました。岩屋大臣は、上川前大臣と同じ認識でいること、ま

た2016年から在比日本大使館が現地調査を行い証明書を発行していることに加え、最近ではフィリピン政府側においても、遅延登録の際の要件緩和など、進展があったことを答弁しました。

塩村議員が、2世の高齢化が進んでいることから対応を急いでほしいと重ねて迫り、岩屋大臣は「一刻も早く進むよう最大限努力する」と答弁しました。外務大臣の答弁の重みを受け止め、日本政府の真摯かつ迅速な対応を求めます。



パナイ日比会主催・映画『日本人の忘れもの』上映 フィリピンで念願の一般上映を実現



パナイ日比会主催による映画『日本人の忘れもの』英語版上映会が、10月20日、フィリピン大学ビサヤ校イロイロ市キャンパス内の劇場にて開催され、2世、3世、4世や招待客、関係者、新日系人など約50人が参加しました。フィリピン国内で同作品が一般市民向けに上映されたのは初めてで、国際交流基金マニラ日本文化センター、静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター、UPビサヤ校文化芸術イニシアチブ事務局、イロイロ市長室、PNLSCの支援により実現しました。

上映会後、フィリピン日系人の取材・調査を38年余り続け、この映画にコメント役として出演している大野俊・京都大学東南アジア地域研究研究所連携教授（フィリピン日系人リーガルサポートセンター理事）が進行役となりディスカッションが行われました。

まず、会場の最前列で映画を鑑賞したパナイ島在住の残留日本人である宮里千鶴子さん、赤嶺エヴェリンさんから、ご自分の半生についての発言がありました。戦中、沖縄出身の母親が難産で亡くなり、やはり沖縄出身の父親を米軍機の爆撃で失った宮里さんは「小学生のこ

ろには級友からハポン（日本人）としてよくからかわれた」など苦難の体験を語りました。また、ある3世は、何人かの親族がすでに渡日して就労して生活レベルが向上した一方、書類上の不備からまだ日本就労の夢がかなわない親族も少なくない実情を述べました。

このあと、数名の観客から、中国残留日本人とフィリピン残留日本人で日本政府の対応が異なった背景、日本政府が近年になってからフィリピン残留者への支援を強化した理由など、質問が相次ぎました。残留者への支援活動に多くの市民が関わり、戸籍取得の運動が活発なことに驚いた、という感想も聞かれました。

大野教授は、フィリピン残留者に対し、日本政府の実態調査の着手が大きく遅れた過去の経緯を説明。また中国残留日本人孤児支援など戦後の援護事業を担う厚生省（現・厚労省）がフィリピン残留者にはずっと冷淡だった一方、外務省主導で支援が進んでいる実情に触れ、この問題で彼らに共感を持つ外交官や裁判官がいるかどうかで、問題の進展が変わってくる、などと指摘しました。（マリアレア デラクルス・パナイ日比会会長）

今もコツコツと就籍許可申立と、戸籍への記載事項申出を続けています 不服申し立てにより、一転戸籍登載のケースも

●長井マリアコラソン(81歳・マニラ市)

嬉しいニュースに感謝します。日本人に会うといつも、話しかけてくれてたまりませんでした。私の日本人の血がそうさせたのです。ようやく父の子であるという自信と尊厳が取り戻されました。自分は何者かという長年の疑問の答えを得た思いです。これまでの苦勞が報われました。PNLSC ありがとう！



●香村サムエル(82歳・パラワン州)

日本国籍が回復したことに感謝の気持ちで一杯です。支援してくださった皆さん、日本政府の方、私にチャンスをごささり、ありがとうございました。私の子どもや孫たちが日本で働くという彼らの夢をかなえることができますように。



●井手本ハツコプリフィカシオン(85歳・セブ州)

これまで、私は自分が日本人の子と認められるために必要な証拠が十分でなくとも、自分は日本人の子どもであるのだと、誇りを失いませんでした。その夢はついに現実となりました。担当の林田弁護士をはじめ、PNLSC とセブ日系人会の皆さんに感謝します。



●白石フリアナ・白石ベニタ(いずれも故人)

これまで4回記載事項届出を提出するも、すべて不受理となってきた白石昇三の2世・故フリアナと故ベニタの出生につき、不服申し立てを行ない、ようやく悲願であった2人の出生が1世の戸籍に登載されました。ほかにも、宮迫ベニトさん宮迫マリナさん兄妹の出生記載事項届出も受理されて、父親の戸籍に登載されました。死亡した2世には、この「記載事項届出」による戸籍登載を続けています。



カナダのフィリピン日系人協会が映画『日本人の忘れもの』上映会を開催！ 戦争の悲劇と闘いの過程を共有

2024年12月7日、トロントのフィリピン日系人協会は、映画『日本人の忘れもの』を上映、90人(カナダ人、日系カナダ人、日系フィリピン人、大学生や教授等)が参加し、カナダの人々がフィリピン残留2世問題について知る初めての機会となりました。海外の日系人は今ようやく、私たちフィリピン日系人の物語を知り始めています。

映画を見終えた今、多くの人々は、日本政府が現在日系人を支援するために何をしているのか、最新の情報を求めています。1988年、カナダの日系人は、戦争中の不当な収容に対する補償と公式な謝罪として「リドレス(補償)」を受けました。多くの参加者は、フィリピン日系人がまだその補償を受けていないことに衝撃を受けています。ある日本人は、「戦争被害受忍論」のひどさに気づいたと言いました。この理論は、戦争中に苦しんだ人々には補償を求める権利がないとし、戦争の現実として受け入れなければならないと主張しています。しかし、日本政府は、この問題を解決しなければなりません。フィリピン日系人の問題は、もはや単なる国家問題ではなく、国際法の

下での無国籍者問題となっています。

日系人と認められるまでの過程は

非常に困難で骨の折れるものです。私の祖母、「ハシリアクラ」は私が子どもの頃に亡くなりましたが、彼女は日本人父の身元を特定できませんでした。私は4世として、祖母が安らかに眠れるよう、曾祖父を探し続ける義務があります。私は、国籍を求めてともに戦うロロ(おじいさん)やロラ(おばあさん)のために祈り、支援を続けています。

2025年が始まるにあたり、なぜ、戦争終結から80年近く経った今もなお、この問題は解決されていないのかと自問しなければなりません。私たち北米の団体は、引き続き私たちの物語を広め、より多くのフィリピン日系人を探し、日本政府が私たちの国境を越えた努力に気づくことを願っています。また、この問題への関心を集め、手遅れになる前に助けられるよう、この映画を再びカナダ全土で上映する計画も立てています。(ジュン)

ジュンクラ ボンゴラン(日系4世・カナダの日系人協会会長):カナダのフィリピン日系人協会は2024年に設立されました。現在、会員はおよそ30名です。



エッセイコンテスト入賞作品と奨励作品、すべて読めます

書籍「アイデンティティを抱きしめて」完成!



2023年、PNLSC20周年の節目の年に開催したフィリピン日系人エッセイコンテスト。14点の受賞作品に、受賞は逃したものの審査員の印象に残った「奨励作品」を加えた全17作品が一冊の書籍になりました。2024年8月24日に実施したオンライン授賞イベントとワークショップの概要も冒頭にまとめています。フィリピン残留日本人問題を俯瞰しつつ、ディテールにもフォーカスした一冊は、分断と対立の世界を生きる今の私たちに、多くの示唆と希望を与えてくれることでしょう。

鮮やかな表紙イラストを手がけてくださったのは3世

でアーティストの金城トニコさん。本文はすべて英語(一部タガログ語)と日本語の併記で構成されています。読んでみたい方は、PNLSC事務所までご連絡ください。送料手数料の実費として500円をご負担いただきますが、お送りいたします。感想も募集しています。ぜひ、右QRコードからお声をお寄せください。



日系人メッセージ：レイラ デンダさん（3世）

震災の経験を乗り越え、夫婦で日本に定住

私はレイラ デンダ ディマリグ、日系3世です。私の日本人祖父・傳田長次郎は、1930年代に日本からフィリピン・マニラへ留学生として渡航しました。戦争中は日本軍の一員となり、私の父は1944年にマニラで生まれました。戦後、父は祖父母とともに日本へ強制送還されました。

父は12歳まで日本で育ち、その後やむを得ない事情により祖母とともにフィリピンへ帰りました。帰国後、日本の祖父と連絡を取り合うことはありませんでした。

1990年代になり、父は祖父の身元を捜すために、観光ビザを取得して再び日本を訪れました。父は祖父の故郷である長野市の市役所を訪れ、職員に自分の身の上について説明しました。そこで祖父の身元が判明し、すでに亡くなっていたことを知りました。



1世である傳田長次郎と、妻エリサ、2世で著者の父であるアントニオの家族写真(新橋の写真館にて)

私は2010年より定住者として日本での生活を始めました。茨城県ひたちなか市那珂湊で父や兄弟と暮らしていましたが、2011年の東日本大震災で津波の被害に遭い、フィリピンへ帰国することを決め、日本を後にしました。

2012年、私は日本に再渡航し、その6年後には夫もフィリピンでの仕事を早期退職して、日本へ来る決心をしました。

父は日本国籍の取得を切望していました。そして私や私の弟たちは、自分の子どもたちを日本に連れて来たいと思っていました。私たちは日系4世である彼らの在留資格の取得を試みましたが、彼らはすでに18歳以上となっていたため許可されませんでした。

私は子どもたちと一緒に日本で暮らすという望みを叶えるために、日本文化や祖先について学びました。インターネットを駆使して情報を得る中で、PNLSCに辿り

着き、PNLSCがフィリピン残留日本人孤児の調査を行っていることや弁護士とともに就籍許可申立による日本国籍取得支援を行っていることを知りました。

2024年1月にPNLSCと連絡を取り、父の就籍許可申立について相談し、手続きに必要な書類や証拠類の準備を始めました。PNLSCと弁護団の助けにより、父のケースは5月には家庭裁判所に申し立てられ、その4か月後には就籍許可が下りました。

現在、私と弟たちは、子どもたちの在留資格取得の準備を進めています。私たち家族みんなが一緒に、ここ日本で暮らせるようになることを楽しみにしています。

私と夫、私の両親、私の子どもたち、弟たち、義理の妹、姪甥、家族の誰もが、金裕介弁護士とPNLSCが父の日本国籍回復に尽力してくれたことに感謝しています。



左から3人目が著者の父、傳田アントニオ



家族と一緒ににぎやかなひととき。著者は後列中央の黄色いTシャツ



多様なルーツの人たちとのつながりと支え合い

はじめて訪れたフィリピン。出会った子どもたちから掛けられた「Good bye my friend!」という言葉きっかけに、子どもたちのために、自分のできることをしようと1994年4月に行動を起こしたのが、「アイキャン」の始まりでした。一人でも多くの子どもたちが、自分のできることを増やし、自分自身を好きになり、生まれてきたことをうれしいと思えるようにしたい。そんな思いからの出発でした。

設立から30年、社会課題も複雑化

それ以来、「アイキャン」は大変多くの方々を支えられ、マニラ首都圏(路上生活者集住地域、パヤタスごみ処分場周辺など)やミンダナオ島(ジェネラルサントス周辺およびイスラム自治地域など)など、主にフィリピンで活動してきました。様々な人々に寄り添い、ともに活動し、また、人々ができることを増やし力強く進んでいく姿から、多くのことを学んできました。

設立から30年。日本に移り住むフィリピンの方も増え、社会課題も2国間にまたがる複雑なものになってきました。「アイキャン」も2022年から日本国内に住むフィリピン国籍の方々に寄り添う活動を始めました。特に、岐阜県美濃加茂市では、行政とも協力して、生活相談会を実施したり、外国籍の方々と行政や日本人コミュニティとのつながりを作る活動などを行ったりしています。

岐阜県美濃加茂市とその隣の可児市はフィリピン日系人の集住地域の一つです。この地域は製造業が盛んなところで、両市で約7000人のフィリピン国籍の方が住んでおり、外国籍住民の45%、全人口の4.5%を占めています。その大半がフィリピン日系人の方で、多くは派遣会社を通じて、日本語を使う必要がない製造業の職場で働いています。

その結果、親世代の方々の多くは日本語が話せず、想いがあるても子どもの勉強をフォローできず、子ども達は日本語での教育環境の困難を自分で克

服しなければなりません。また、フィリピンと違って、日本の学校制度では、習熟度に関係なくほとんどの子どもが進級します。子どもが日本語の日常会話ができるようになって親が安心していただけなのに、実際には授業内容がまったくわかっていなかったというケースも多いのです。

支え合える多様なネットワークの構築に期待

PNLSCのエッセイコンテストの授与式およびワークショップにオンラインで参加させて頂きました。そこには、第二次世界大戦の戦中戦後を大変な思いで生き抜いた2世の方、世界中で活躍される方、日本で働かれている方、日本およびフィリピンで成長し大学などの高等教育を受けている方々などが、様々な思いで、支援者、研究者の方々とともに、参加されていました。それらの方々がつながり、お互いに支えあい、相談しあえるネットワークが発展していけば、とても有意義で素晴らしいものになると確信しています。

日本およびフィリピンで暮らすフィリピン日系人の子ども達、また、それを支える親の皆さんが、迷い困った時にも諦めず、日系人であることを誇りに持ち、他の方々の姿や助力を支えに前に進んでいけるように、自分もつながっていききたいと思います。



日系人の子どもたちの教育課題を市民に共有するためのシンポジウムについて、打ち合わせ中。シンポジウム当日は、お父さんお母さんやお姉さんが司会や発表を担当。市長をはじめ行政の方々、外国籍の方との共生に興味を持つ市民の方々など、50名ほどが参加



PNLSC 活動報告 (2024.10.01-2024.12.27)

10/11	ニュースレター発送準備(ボランティア4人参加)	11/07 ~	猪俣、フィリピン出張(12/24まで)	12/02	来所:屋宜ホセフィーナミチコさんほかご家族9人
10/15	来所:連合会イネス マリヤリ会長、エスコビリヤPNJK会長、2世カルメン アピーゴさん	11/14 ~ 18	赤比地サムエルさん親族がフィリピン訪問(猪俣同行)	12/03	来所:静岡新聞宮坂さん
	ニュースレター発送作業(ボランティア2名参加)	11/15	来所:テレビ朝日松本健吾記者	12/05	東京外語大学にて出張講義(石井)
10/16	ニュースレター発送作業(ボランティア2名参加)	11/18	武蔵大学にて出張講義(田近)	12/05	来所:NHK 桑原さん、酒井さん
10/17	ファミリーサーチVIP会合(猪俣、田近)	11/19 ~	猪俣ダバオへ(琉球朝日放送取材同行)	12/17	取材:テレビ朝日「大下容子のワイドスクランブル」取材チーム
10/22	外務省南東アジア二課訪問(猪俣、石井)	11/20	ダバオ石川総領事による面接(コタバト)	12/18	マニラ総領事面接(オンライン)
10/30	城西大学にて出張講義(猪俣)	11/21	来所:大城ファミリー4世ケネス タンさん	12/26	来所:大野俊理事
10/31 ~	猪俣、沖縄出張	11/26	猪俣パナイ島へ。セブ領事官矢富領事による2世面接(パナイ島アンティケにて)	12/27	仕事納め
		11/27	矢富領事による2世面接(オンライン)	<2025年予定>	
				01/06	仕事始め
				01/13	引っ越し
				03/27	PNLSC通常総会

書き損じハガキのご寄付をお待ちしています!

ご支援に感謝いたします (敬称略・順不同・2024.10.01-2025.01.02)

《新入会》

個人賛助会員: 小林幸恵、外間良信、岩崎雅一

日系人会員: エキセクル エスクルトユラ、ダルンマイマリアキャンデル、新田テレシタ、ヴァリエントス エドガード、ヤギカートイーサン、サンクロエ ミチコ、サンカリアレクセイ

《会員更新》

個人正会員: ルイズ プレシリアノ ジュニ

ア、篠塚寿美香

個人賛助会員: 先本賢一、松浦浩美、金子明彦、枝史子、青山侑、星野真理、白井英子、本田幹朗、滝正佳、金田元嗣、近藤恭子、笠原真弓、森永亨、木村利人、菊池政敏

日系人会員: 武藤デリア、大道アン、ヴァリエントス ルディ、ペロトアルマンド タダ、パシベン フランシスカ メンデス、笠原セフィリノ、リグイドリディア ヤワカ

寄付: ばかぼん、末吉健一、小林幸恵、

白井英子、清水木材株式会社、菊田希子、本郷辰也、佐藤愛子、森岡正江、城千枝、浦濱祐一、浦濱大祐、浦濱亮祐、浦濱健太、浦濱恭子、佐倉平和のつどい、岩崎茂、住吉千砂、近藤恭子、藤寄政子、ヴァリエントス ルディ L、米田直生、大石正人、澤田猛、大場光代、河合弘之、屋宜ブレッツェル、匿名3名

※認定 NPO への合計 3,000 円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。(但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外)
 ※領収書(寄付金受領証明書)について、今後は1月~12月にご入金いただいた領収書をまとめて翌年1月にお送りすることとさせていただきます。すぐに領収書をご入用の方は恐れ入りますが事務局までお知らせください。

事務局日より

2025年1月13日、新事務所に移転します。2年前まで入居していた新井ビルの跡地に建てられた新しくエコなビルの地下一階です。目印は屋上にある時計台と壁面のソーラーパネルです。お近くにお越しの際はお立ち寄りください。電話番号は変わりません。



マニラ事務所便り

皆さん、明けましておめでとうございます! 皆様にとって幸多き新年となりますように。私たちの日系人の仲間が現在進行中の請願を達成するのを支援している人々に祝福を。そして日系人の皆さんは、この状況が克服されることを信じて祈り続けてください。今はマニラオフィスに一人ですが、全力でサポートさせていただきます。ただ祈り、忍耐、信頼するだけです。(ジェン)

ご入会・ご寄付のお願い

■正会員

(団体)	入会金	30,000 円
	年会費	24,000 円
(個人)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円

■賛助会員

(団体)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円
(個人)	入会金	1,000 円
	年会費	6,000 円

■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■銀行口座

みずほ銀行 四谷支店
 普通 1985293
 ゆうちょ銀行 〇一九支店
 当座 00130-6-333599

※名義はいずれも「フィリピンニッケイジンリーガルサポートセンター」

発行

認定 NPO 法人
フィリピン日系人リーガルサポートセンター
 (Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事: 河合弘之 Hiroyuki KAWAI
 猪俣典弘 Norihiro INOMATA
 事務局長: 石井恭子 Kyoko ISHII

〒160-0003
 東京都新宿区四谷本塩町4番15号 さくら共同ビル B1
 TEL:03-6709-8151 FAX:03-6709-8152
 E-mail:info@pnlsc.com URL:http://www.pnlsc.com

